

令和6年度 学校経営計画・学校評価

4月4日提出

10月3日提出

3月14日提出

学校番号

12

高知東工業

高等学校

課程

定

高知県の教育の基本理念	(1)学が意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
スクールポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針) ○ものづくりや資格取得に興味・関心がある生徒 ○基本的な生活習慣を身に付け、規律ある集団生活ができる生徒 ○機械等の専門知識を生かして社会で活躍したい生徒 ○働きながら学が意思のある生徒 【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○ものづくりの楽しさを実感し、最後まで諦めずに挑戦できる力を持っている。 ○機械に関する技術・技能を社会で生かす意欲を持っている。 ○規律ある態度や将来の技術者の規範意識を持っている。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○少人数指導、個別指導を授業で行い、基礎的な知識・技能を習得させます。 ○タブレット等ICT機器を用いた授業を行います。 ○工業実習では、基礎的な知識・技能を習得させるとともに、最新の実習設備や機器を活用してデジタル化に対応した実習を行います。 ○高知北高校との併修及び高知高等技術学校技能訓練制度の活用によって、3年間で卒業を目指すことができます。	

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価 【 B 】
目標値には届いていない項目もあるが、生徒に寄り添った指導ができていると思います。教職員が一人一人の生徒を大切に丁寧、対応していることがよくわかりました。	
【社会性の育成】	評価 【 B 】
全日制と比べて、更に難しい対応が必要な生徒が多いと思います。大変だとは思いますが、それに対応していき、社会に向かって旅立つ生徒の支援を引き続きお願いしたいです。	
【チーム学校】	評価 【 A 】
不祥事防止、働き方改革が成果として残せていることは素晴らしいことだと思います。	

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	・保護者・SC等の専門家との連携により出席率の向上 ・授業規律の確立(指導の統一を図る) ・個に応じた授業への改善(教材の工夫(ICT活用等)) ・Google Formsを活用した宿題や定期考査時の学習時間設定により、自学習習慣の定着を図る取組	B	・基礎力診断テストは定時制での実施は9月に1回であり、まだ結果が出ていない。入学段階での基礎学力からすると多くはD層と考えられ、C層以上は難易度が高い。ただし、ワンウィークトライアルにも時間いっぱい取り組む姿勢が見られたため、学力向上にはつながっていると思われる。 ・将来のための勉強をしている生徒は、3.1%増。 ・学校の授業はよく理解できている生徒は、19.3%増。	B	○C層以上の生徒の増加 ・1年:(0)%の増減 ・2年:(0)%の増減 ○授業外学習時間の増加 R5より1日1.1分増であった。 ○将来のための勉強をしている生徒の増加 R5より2.5%減となった。 ○「学校の授業はよく理解できている」 R5より2.7%増となった。	中間評価より下がっている項目は、授業が進むごとにレベルが上がり難しくなっていることも理由の一つと考えられる。授業改善、ICTの活用等で理解度をあげていきたい。 授業外学習は、数名の生徒が進路に向け勉強を頑張りはじめた結果であるが、他の生徒にも波及するように継続して取り組んでいきたい。 基礎学力や学習意欲は入学時より向上している。取組を継続していく。
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○学校行事への参加率増加 R5より9%増 ○「将来の夢や希望を持っている」 R5より20%増	・生徒会を中心とした企画運営を行い学校行事等を充実 ・サポステと連携し、1年次より系統立てたキャリア教育の推進 ・聴講生制度を活用し、聴講生との交流	B	・サポステとの連携による進路講演などの進路に関する取組を行っているが、多くの生徒は自分事としてとらえるところまでは至っていない。 ・学校行事への参加率は7%増であった。 ・将来の夢や希望を持っている生徒は10.6%増であった。	B	学校行事への参加率は現在まで7.1%増となった。 県オリジナルアンケート2回目の結果で「将来の夢や希望を持っている」の肯定的回答は27.2%増であった。進路講演や日頃の担任を中心とした進路意識向上の取組が良い結果につながったと考えられる。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	・地域清掃ボランティアや地域店舗等への聴講生募集の協力依頼 ・競技会、発表会への積極的参加	C	・地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる生徒は、11.9%増であった。 ・地域・関係機関との連携回数は1回 ・競技会、発表会への参加は本年度は難しい状況である。	B	○「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることができる」 R5より23%増となった。 ・地域・関係機関との連携回数は1回 ・競技会、発表会への参加生徒を出すことができなかった。	夜間では、地域での活動や、競技会に向けた授業外の取組は難しい面があるが、生徒の成長は大きい限り可能な限り調整して行っていく。 ・仕事やアルバイト等による社会性の向上は重要であるため、引き続き勤務への意識づけを行っていく。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	・授業参観週間の実施 ・教員同士の授業見学	B	・各教科とも言語活動や情報活用をする授業を模索しながら展開している。 ・課題研究はそれぞれの課題解決に向けて取り組むことができている。	B	○各教科において言語活動や情報活用能力を育成する場面を意図的に設定した回数は概ね達成することができた。 ○課題研究では、多機能手引き台車・焚き火台を製作し課題発見や解決に結びつけることができた。	各先生方が工夫してICTの活用や、考えさせる授業を模索しながらではあるが展開している。継続していきたい。 課題研究では課題解決方法の学びとなるよう進めていきたい。

	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○生徒の資質・能力の育成 ○教員の指導力向上 ○学校の関係機関との連携 ○専門高校(学科)の魅力化	・校内支援会の充実 ・ICTを活用したわかる授業の実施 ・教員の研修会への積極的参加 ・競技会、発表会への積極的参加 ・資格試験受験者の増加 ・近隣企業との連携 ・学校Instagramの創設および運営	B	・校内支援会は毎月開催し情報共有と未然防止・支援につなげることができている。 ・ICTの活用は若年者を中心に、研修会にも参加し、授業でも実践しながら活用している。 ・製造業への進路希望は意識づけは行っているが少ない状況である。 ・Instagramはアカウントを創設し運営を始めた。	B	○中途退学者は0名である。 ○教員の専門力向上に係る研修会への参加も積極的に行うことができた。 ○製造業関係への進路希望者は22%であった。 ○学校Instagramによる情報発信は多くではないがアップすることができた。	・具体的な取組内容内容を継続していく。 ・もともと製造業に進むことを希望せずに入学している生徒もおり、実習などをとおしてものづくりの楽しさを教え、進路先に選択されるよう取り組んでいく。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○職員相互でのコミュニケーションの充実 ○校内研修の充実 ○SC等の専門家との連携 ○不祥事防止委員会による注意喚起	B	・職員の人数が少ないため全員が不祥事防止委員として、毎職員会後の委員会に参加し学校長主導で注意喚起を行い、防止に努めている。	A	○今後も、日頃の声掛けや、不祥事防止委員会等を活用して注意喚起を行い、不祥事を自分事としてとらえ防止に努める。 ○学校運営協議会から提案いただき活用していく。	弁護士によるハラスメントに関する校内研修を実施。全員が不祥事防止委員として、毎職員会後の委員会に参加し学校長主導で注意喚起を行い、不祥事防止に努めることができた。内容は、セクハラ・パワハラ、誤送信、いじめ対応、個人情報取扱、教務手帳等の取扱、飲酒運転、道路交通法改正など、多くのことを自分事としてとらえ防止に努める意識向上につながった。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○不規則な勤務などによる心身への負担を軽減	○時間外の長時間労働は見られない。 ○不規則な生活や校務の集中化などによる心身への負担などがみられる。	・校務や学校行事の精選 ・校務分担の検討 ・各種資料(職員会議等)のペーパーレス化 ・「すぐーる」の活用	B	・教職員間のコミュニケーションは取れており、ペーパーレス化や「すぐーる」の活用も進んでいる。	A	・業務や学校行事等、より効率的に行えないか、検討するとともに、来年度の精選につなげていく。 ・ICTを活用したペーパーレス化や「すぐーる」、「Google Forms」等のツールの活用も広げることができた。